

DI 調査結果（令和5年7月-9月期）

一般社団法人石川県鉄工機電協会

概況総括：『景況感は下振れ傾向での横ばい状態で、海外経済の動向に注意する必要があり
来期については厳しい見通しとなっている』

【調査概要】

1. 今期(令和5年7月-9月期)の業況調査 DI12 項目では、「受注単価販売価格」など3項目がプラス、「売上高」など9項目がマイナスとなり、8項目が悪化している。
2. 現在の経営状況を示す「売上高」から「生産設備」までの9項目では、
 - (1) 景況感を端的に表す「売上高」は、▲5.7(前回▲6.5)と引き続きマイナスで推移している。また高騰が続く「原材料価格」が▲42.9(前回▲53.1)と落ち着きを見せつつあるが依然として上昇が続いている。「収益状況」も▲15.4(前回▲19.4)と改善しているものの、価格転嫁が充分に進んでいない状況が窺える。
 - (2) 現場の繁忙さを表す指標では、「操業率」▲3.1(前回▲1.8)と引き続きマイナスとなり、「受注残」6.3(前回9.5)、「生産設備」3.6(前回4.9)と、いずれも減少となっており、景況の一服感がみられる。
3. 来期については、「来期受注」▲7.7(前回1.4)とマイナスに転じ、「来期採算」▲8.4(前回▲6.5)「来期資金繰」▲6.3(前回▲2.5)と、3項目ともに減少・悪化となっており、先行きについては厳しい見通しとなっている。
4. 「企業経営上の悩み」については、「人材不足」が35.6(前回34.5)と更にポイントをあげており、更なる自動化や省人化の取組みが急がれる。また、「受注不安定」も29.9(前回28.4)とポイントをあげており、受注の不安感が強くなってきている。
5. 景況感下振れ傾向での横ばいで推移しており、売上減少や原材料、エネルギー関連価格の高騰で収益状況が逼迫している。長引くロシア・ウクライナ問題とともに、欧米や中国経済の動向に注意する必要があり、先行きが厳しい見通しとなっている。

